

令和5年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月1日実施)	総合評価（3月29日実施）		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	成果と課題	改善方策等		
1	教育課程 学習指導	<p>① 課題を発見し、自ら主体的に学ぶ意欲を養い、思考力、判断力、表現力を育む。</p> <p>② 学校行事や生徒会活動を充実させ、生徒の主体性の伸長を図る。</p>	<p>① 組織的な授業改善を深化させ、マネジメント力を高めるとともに、プログラムの思考やSDGsの視点を取り入れた授業実践を行い、生徒の論理的思考力・課題解決力を高める。</p> <p>② 生徒主体の活動を後押しし、学校行事、委員会活動、部活動の充実を図る。</p>	<p>① プログラム的思考を取り入れた授業の組み立てにより、ものの見方・考え方を働かせる授業を行う。</p> <p>② ねらいを明確にした思考させる事例をベースに組織的な授業改善を行う。</p> <p>③ 各自の課題を発見させる機会を増やす。</p>	<p>① 生徒による授業評価で各項目の評価が3・4を合わせて90%以上となったか。</p> <p>② ねらい、方法、評価を明確にした思考させる授業づくりを全教科・全科目で行うことができたか。</p> <p>③ ポートフォリオ形式で各自まとめることができたか。</p>	<p>① 生徒による前期の授業評価では、87.8%であり、目標の90%に達していない。</p> <p>② 授業づくりのための研修を2回実施し、成果を上げた。日々の授業や研究授業に活かしている。</p> <p>③ ポートフォリオは、1学年はスタディアプリで、2学年はGoogle サイトでまとめている。</p>	<p>① 生徒による授業評価の分析や職員研修、研究授業の振り返りの成果を教科を越えて共有する。</p> <p>② 思考させる授業作りを全教科で研究する。</p> <p>③ 引き続き、LHR 等でまとめる機会を設ける。</p>	<p>① おおむね達成しているのではないが、</p> <p>② できないことが分かるようになることへの達成感が数字に表れている。</p> <p>③ 文化祭では生徒の生き生きとした姿を見ることができた。</p>	<p>① 生徒による授業評価より、思考力に関する項目において90.2%の生徒が当てはまると回答した。</p> <p>② 3学年対象の魅力特色づくりアンケートより、中学の時と比べて、主体的な学習活動を通じて、思考力・判断力・表現力を高めることができたという回答した生徒が86.9%となり、昨年度より4%上昇した。（かなり当てはまる + ほぼ当てはまる）</p> <p>③ 授業づくりのための研修を2回実施し、成果を上げた。日々の授業や研究授業に活かしている。</p> <p>④ ポートフォリオを、1学年はスタディアプリで、2学年はGoogle サイトでまとめられた。</p>	<p>① 生徒の自覚として、思考する意識はあるが、どの方法を用いたかという自覚はないため、次年度よりロゴを振り返りシートなどに取り入れ、生徒がどの技法で考えたか振り返る仕組みを作る。</p> <p>② 生徒が見通しを持って思考をしてくれるように「授業の目標」「流れ」のマグネットを各教室に設置し、見通しをもった授業を行う。</p> <p>③ 生徒が思考した内容を授業で共有する場面を増やすため、職員のアンケートより収集したICTを活用した実践例を共有し、実践に活かす。</p>
2	生徒指導 ・ 支援	<p>① 基本的な生活習慣や社会性を身につけさせ、他者を尊重する態度を養うとともに、きめ細かな教育支援に努める。</p> <p>② 部活動の活性化を通して、責任感や連帯感の育成を図る。</p>	<p>① 生徒の現状にあったルールの見直しと学校全体で統一されたルールに基づく頭髪、服装指導や遅刻指導を徹底する。</p> <p>② 地域に信頼され、地域に貢献できる生徒を育成する。</p> <p>③ 教育相談体制を整備・拡充させる。</p>	<p>① 各学年、各担任間で連絡を密にし、統一した指導を行う。</p> <p>② 遅刻回数に応じて指導方法を変え、徹底を図り、遅刻に対する意識を高める。</p> <p>③ 積極的に登下校の指導を行うことにより、生徒の交通安全のみならず、地域の安全安心を目指す。</p> <p>④ SC、SSW によるカウンセリングと支援の充実を図る。</p>	<p>① 始業式や終業式など全学年が一堂に会す場で統一した指導ができたか。</p> <p>② 遅刻の件数が例年と比較し、減少したか。</p> <p>③ 事故の件数や、苦情の件数が例年より減少したか。</p> <p>④ 支援が必要な生徒に教育相談の機会が十分に与えられたか。</p>	<p>① オンラインを併用しながら対面での集会を実施できた。集会状態や態度は良好であった。問題点を共有し、統一した指導を行った。</p> <p>② 苦情の件数は減少傾向であるが、自転車乗車マナーや問題行動への厳しい指摘はある。遅刻は増加傾向にある。</p> <p>③ SC・SSW と連携し、カウンセリングやケース会議、児童相談所との情報共有を行った。</p>	<p>① 指導の徹底を図り、継続した声掛けを行う。</p> <p>② 公共交通機関利用者の遅延等が増えたことを遅刻増加の一つの要因として捉え、粘り強い指導を継続する。</p> <p>③ 困難を抱える生徒の把握に努め、情報共有と積極的な支援につなげる。</p>	<p>① 遅刻の問題は学校だけではなく保護者、家庭の問題でもある。</p> <p>② 地域から見て、生徒の問題行動は見受けられなくなっている。</p> <p>③ 今後も部活動の活性化を図れるよう、入部を促してほしい。</p>	<p>① 遅刻に関しては減少傾向とは言えず対策が必要と考えられる。生徒指導案件に関しては、内容も軽微なものも多く、総数も減少気味で生徒個々への規範意識が確立されてきたものと考えられる。</p> <p>② SNS 等の案件が多く、情報化社会、一人1台PCを考えても今後の対策は考えなければならぬ。</p> <p>③ コロナが収まり集会等を積極的に開き注意喚起などを行った成果も見られたと考えられる。</p> <p>④ かながわ子どもサポートブックを活用し、SC・SSW と連携しながら困難を抱える生徒の把握と情報共有に努めた。本人の同意がなければ支援が難しいため、生徒との信頼関係を構築することが必要である。</p>	<p>① 遅刻に関しては粘り強い指導を徹底するとともに、自転車通学の生徒のみならず公共交通機関利用者も含めて時間を守る意識の徹底を引き続き行っていく。</p> <p>② SNS に関しては講演会や日ごろからの注意喚起を増やし、SNS からみの指導を減らしていきながら継続して指導を続けていく。</p> <p>③ 生徒指導に関しては引き続き規範意識の徹底を図り、安全安心な高校生活が送れるよう指導を行っていく。</p> <p>④ かながわ子どもサポートブックを効果的に活用するため、適切な時期にアンケートを行い、迅速な情報共有・支援につなげる。</p>
3	進路指導 ・ 支援	<p>① 生徒のキャリア実現をサポートできるようキャリア教育実践プログラムを充実させる。</p>	<p>① 進路実現に向けて1・2年生での進路探究を進めモチベーションを高める。</p> <p>② 生徒や保護者に向けた各種情報発信を工夫する。</p> <p>③ 基礎学力をより高めながら、上級学校への意欲を高めるキャリア支援を行う。</p>	<p>① コンソーシアムと連携してキャリア教育を実施し、36ヶ月キャリア計画に沿って進路活動を実施する。</p> <p>② Classroomや動画配信を充実させ、進路関連情報を生徒や保護者に提供する。</p> <p>③ スタディアプリやスタディアプリイングリッシュ、実力テストなどを活用し、基礎学力を高める指導を行う。</p>	<p>① インターンシップや各種イダグダンスなどへの参加が増え、36ヶ月キャリア計画に沿って進路活動を実施できたか。</p> <p>② 年間を通じて、その時期に応じた進路情報を生徒や保護者に適切に提供できたか。</p> <p>③ 到達度テスト等の結果を分析し、学力向上に反映することができたか。</p>	<p>① 地区インターンシップの参加は前年比6名減の34名、看護体験は前年比4名減の4名、高大連携大学見学は今年度から再開し13名の参加があった。</p> <p>② classroom を利用して奨学金情報や各種進路情報を提供している。</p> <p>③ 到達度テストを年2回実施する。内容について現在検討中である。</p>	<p>① classroom やクラス掲示での周知だけに留めず、興味のある生徒へ個別の声かけをしている。</p> <p>② 保護者に情報が直接届く方法・媒体を準備する。</p> <p>③ スタディアプリやスタディアプリイングリッシュを活用し、日頃からの学習習慣の徹底を促す。</p>	<p>① インターンシップに3年生が中心として参加をしたが、職業に対する視野を広めるといふより、進路活動の経験のために参加をした感がある。1・2年生の時期から参加を促したい。高大連携大学見学はコロナ禍を経て3年ぶりの募集であったが、参加生徒があった。前回は1校だったが、今回は2校に見学に行くことができた。</p> <p>② 定期的に情報配信をすることができた。紙媒体での情報は効果的・効率的ではなかったため、データでの周知をしていきたい。</p> <p>③ テストの必要性や大切さを説明し、自分を知る大切さを理解させた上で受験させることが有効だ。</p>	<p>① インターンシップでは1年生の早い段階から周知をし、参加する意義について伝えていく。参加をきっかけに職業観の視野を広げさせる。高大連携大学見学では、より多くの大学へも参加できるように調整し、生徒へ周知も徹底する。</p> <p>② 学校案内や会社案内などの紙媒体を活用する生徒は少ないため、classroom を活用し、データで管理していきたい。3年生をはじめ保護者向けの説明会なども実施していく。</p> <p>③ LHRや集会などを通して、テストの意義をきちんと伝える。テスト後の取り組みの重要性を伝え、しっかりと取り組ませる。</p>	

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月1日実施)	総合評価 (3月29日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
4	地域等との協働	<p>① 保護者、地域と連携して、信頼される学校づくりを進める。</p> <p>② 学校説明会、中学校への学校紹介資料の配付、ホームページ等を通して、本校の特色を幅広く発信し、魅力を紹介する。</p>	<p>① 学校運営協議会の活性化を図るとともに、PTA活動や防災活動を通して、地域との連携を進める。</p> <p>② 学校説明会、中学校への学校紹介資料の配付、ホームページ等を通して、本校の特色を幅広く発信し、魅力を紹介する。</p>	<p>① 学校運営協議会によって課題や目的を共有し、改善方法を共有する。また、PTA活動への積極的な参加を促す。また防災支援時事業研修を通して、地域との共助の意識を高める。</p> <p>② 学校説明会参加希望者に本校の魅力特色を伝える工夫を図る。</p> <p>各グループにホームページ担当を配置し、積極的に更新する。</p>	<p>① 学校運営協議会によって課題や目的を共有し、改善できたか。</p> <p>② PTA活動への参加者が、昨年度よりも増えたか。</p> <p>地域の方々、防災研修へ参加できたか。</p> <p>地域の要請に応じて積極的に参加できたか。</p> <p>② ホームページは常に最新データに更新されたか。</p>	<p>① 課題や目的を共有し、改善に向けて取り組んでいる。</p> <p>② これまで2回の学校説明会を実施し、664名の中学生に、本校の特色を適切に伝えることができた。</p> <p>③ 今後も課題や目的を共有し、改善方法を探る。</p> <p>④ 地域自治会が避難設備の見学に訪れた。防災講演会に地域から1名の参加があった。</p> <p>⑤ 今後も、進路選択の参考になるように本校の特色を伝える。</p> <p>⑥ 行事毎に更新する。</p>	<p>① 今後も課題や目的を共有し、改善方法を探る。</p> <p>② 地域災害時避難場所として、防災研修等への参加を促す。</p> <p>③ 今後も、進路選択の参考になるように本校の特色を伝える。</p> <p>④ 学校広報で生徒の顔の見える発信に好感が持てる。</p>	<p>① 課題や目的を共有し、改善に向けて努力した。</p> <p>② 学校説明会を4回実施し、973名の中学生に本校の特色を伝えることができた。</p> <p>③ 学校HPでは、これまでに比べて迅速な情報発信や更新ができた。</p> <p>④ 地域に向けて防災研修参加への発信を積極的に行う。</p> <p>⑤ 要請に応じて、引き続き生徒の参加や交流を促していく。</p> <p>⑥ HPでの迅速、的確な情報発信を目指す。</p>	<p>① 引き続き改善に向けて、課題や目的を共有していく。</p> <p>② 地域に向けて防災研修参加への発信を積極的に行う。</p> <p>③ 要請に応じて、引き続き生徒の参加や交流を促していく。</p> <p>④ 新年度、新入学生にアンケートをとり、学校選びで参考になった点や本校を選んだ理由などを整理し、今後の発信に活かす。</p>	
5	学校管理 学校運営	<p>① 安心して安全な教育環境を確立し、生徒一人ひとりが「気品と誇り」を持ち、のびのびと学習できる環境を整備し、より良い学校づくりを推進する。</p> <p>② 教員の働き方改革を推進するための意識改革を図り、ワークバランスを推進する。</p> <p>③ 職員全体で事故防止に取り組む。</p> <p>④ 学校図書館が学校生活の様々な場面で活用されるよう努める。</p>	<p>① 職員・生徒・保護者等が一体となってより良い教育環境づくりを行う。</p> <p>② 1日単位で10日以上上の年休が取得できるよう、業務調整する。</p> <p>③ 服務管理をはじめ入学者選抜、成績処理、調査書発行等における事故を未然に防止する。</p> <p>④ 生徒一人一人の課題を引き出し、興味・関心に寄り添う図書館をめざす。</p>	<p>① 職員・生徒・保護者等が協力して、交通安全指導や安全点検を行うとともに、清掃活動や校内環境整備行事を行う。</p> <p>② 感染症を防ぎ、通常の教育活動を実施できたか。</p> <p>③ 業務を精選・分担できたか。</p> <p>④ 1日単位での年休を全職員が10日以上取得できたか。</p> <p>⑤ 定期的な不祥事防止会議を実施し、啓発資料等を効果的に活用しながら職員の当事者意識を高める。</p> <p>⑥ 図書館に関する情報を積極的に発信していく。</p> <p>⑦ 地域・外部との連携を進める。</p>	<p>① PTAや学校保健委員会、厚生委員会と連携し、校内整備を進めることができたか。</p> <p>② 感染症を防ぎ、通常の教育活動を実施できたか。</p> <p>③ 業務を精選・分担できたか。</p> <p>④ 1日単位での年休を全職員が10日以上取得できたか。</p> <p>⑤ 定期的な不祥事防止会議及び不祥事防止研修会を年間通して実施することができたか。</p> <p>⑥ 図書館の利用率・利用頻度は上がったか。図書館が関わる授業利用が増えたか。</p> <p>⑦ 広報活動を、各種メディアを用いて継続的に行ったか。</p> <p>⑧ 地域・外部との連携を進めることができたか。</p>	<p>① PTA校内美化活動を実施し、多くのPTAボランティアの参加を得たが、生徒の参加は1名にとどまった。</p> <p>② 新型コロナウイルス感染症5類移行により、日常生活に制限はなくなったが、換気の徹底を継続した。</p> <p>③ 業務内容について確認し、来年度も7グループの体制を維持する。</p> <p>④ 利用率・利用頻度は前年度同様であった。授業利用は16時間で前年度並みだが、様々な授業や場面で資料を活用することができた。</p> <p>⑤ HP、X(旧twitter)等を用いた広報活動を行うことができた。</p> <p>⑥ 昨年度に引き続き、中学校2校の職業体験を受け入れた。</p> <p>⑦ 地域イベントに、図書委員会の作品の貸し出しを準備することができた。(都合により展示されなかった)</p>	<p>① 今後も活性化に向けて活動するとともに、生徒にも積極的に呼びかける。</p> <p>② 引き続き換気を徹底し、自衛を促す。</p> <p>③ 今後に向けて、グループの統合等を見直しながら、業務内容を精選し、的確な引継ぎに留意する。</p> <p>④ 様々な層の利用者にアプローチできるように、情報収集に努める。</p> <p>⑤ 引き続き、継続的な広報活動に努める。</p> <p>⑥ 地域連携が可能な機会を逃さず協力する。</p>	<p>① 保護者としても、学校環境の整備に協力できた。</p> <p>② 業務の精選、ビルド&スクラップの視点が重要である。</p> <p>③ 事故防止に向けて今後も職員の意識を高める。</p> <p>④ 様々な層の利用者にアプローチできるように、情報収集に努める。</p> <p>⑤ 引き続き、継続的な広報活動に努める。</p>	<p>① 厚生委員会の活用はできなかった。校内美化活動への生徒の参加は1名であった。</p> <p>② 総数は減っているものの、新型コロナやインフルエンザ等の感染症による出校停止生徒が一定数いた。</p> <p>③ 大きな事故や不祥事なかった。ヒヤリハットの事例を早めに共有することで、事故防止に努めることができた。</p> <p>④ 利用率・利用頻度は前年度同様で、決して高いものではない。授業利用については最終的に29時間と微増した。利用される教科や場面を増やせるような工夫が必要である。</p> <p>⑤ HPやX(旧Twitter)を活用して外部へ様子を伝えるときともに、校内での広報に活用するためのClassroomやLibFinder等を用いての効果的な発信方法について研究していきたい。</p> <p>⑥ 中学校2校の職業体験については、引き続き受け入れていき、できれば高校の図書委員との交流を持てるよう、実習の工夫をしたい。</p> <p>⑦ 今ある地域連携事業について継続し、必要とされる場面があれば対応できるよう心掛ける。</p>	<p>① 来年度から、厚生委員会は美化委員会と保健委員会に改編し、美化委員会を総務担当とし、積極的な活用をしていく。</p> <p>② 引き続き、うがい、手洗い、換気の励行を促していく。</p> <p>③ 総括教諭の配置や若手職員の増加を見据え、校内組織の有効な配置の検討を進める。</p> <p>④ まずは教員に対してアプローチを行い、授業での活用例などを示しながら、授業連携へのハードルを低くしていく。また、座席やプロジェクターなどの環境を整え、準備に時間をかけず使えるような工夫をする。</p> <p>⑤ 生徒においては、どんな理由でもよいので足を運んでもらい、本や図書館という場に慣れ親んでもらえるような土壌を作る。広報活動を充実させ、こまめに情報発信できるような仕組みづくりを行う。発信方法について、チャット等で情報収集をし、司書が積極的に学んでいく。</p>